

下京雅学校だより

～SHIMOGYO-MIYABI News Letter～

後期学校評価特集



平成31年3月
京都市立下京雅小学校

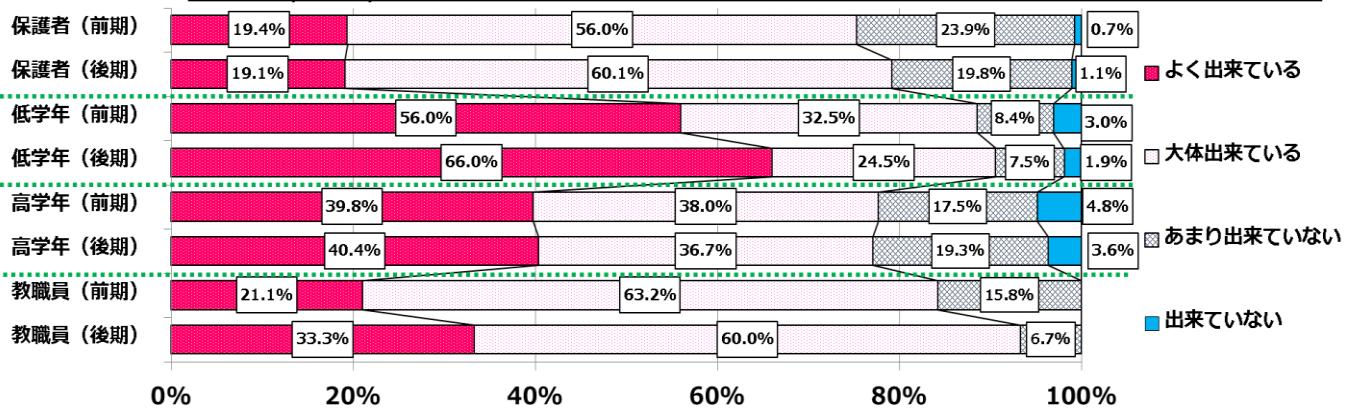
平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、1月に実施いたしました平成30年度後期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。
保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、前期と後期で比較しました。

保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。この結果をもとに、次年度の様々な取組を再確認し、よりよい学校づくりに生かしてまいります。

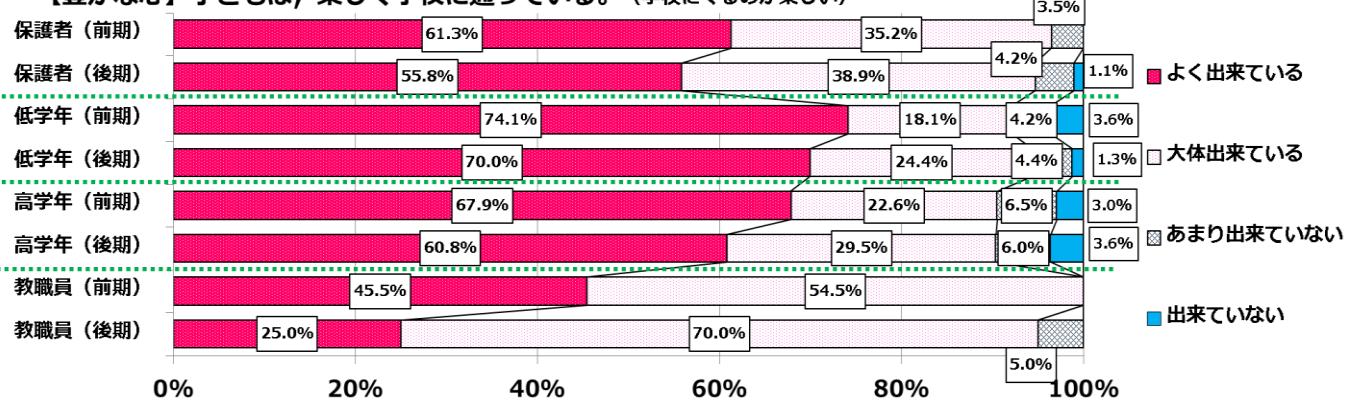
【アンケート集計結果】（「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「いじめ防止等」「家庭・学校、地域との連携」の項目から一つを選んで分析しました。）

【確かな学力】家庭では、毎日、計画的に継続して家庭学習ができるような環境を整えている。（毎日家庭学習をしている）



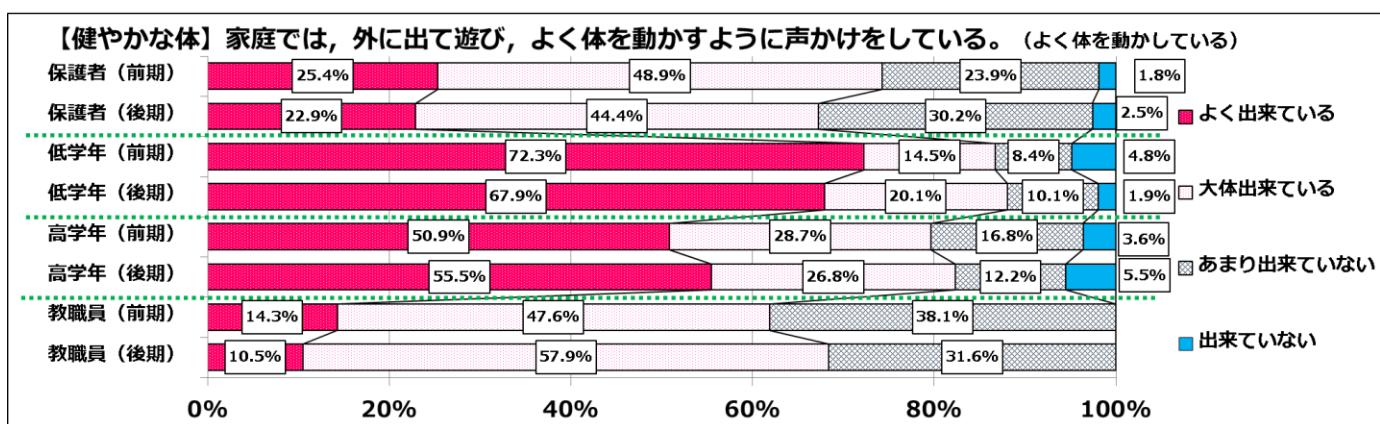
家庭学習は、学んだことを振り返り、確かな学力につなげるものです。毎日コツコツ続けていくことが、子どもたちの力となります。小学生のうちに家庭学習の習慣を身に付けることが、後々の学校生活に大きく影響します。このようなことから、「よく出来ている」と回答した低学年児童で約10ポイント増加したことは嬉しい結果といえます。また、教職員の評価も上がっており、子どもたちが成長してきたことを表しているのではないかと思います。「先生や家の人に言われなくとも宿題や課題をやることができる」「わからないことは自分で調べる」「興味・関心を持ったことを追求する」などという力を身に付けるためにも、子どもたちへの肯定的な声かけや家庭学習に取り組む時間の工夫などの支援を続けていきたいと考えます。

【豊かな心】子どもは、楽しく学校に通っている。（学校にくるのが楽しい）

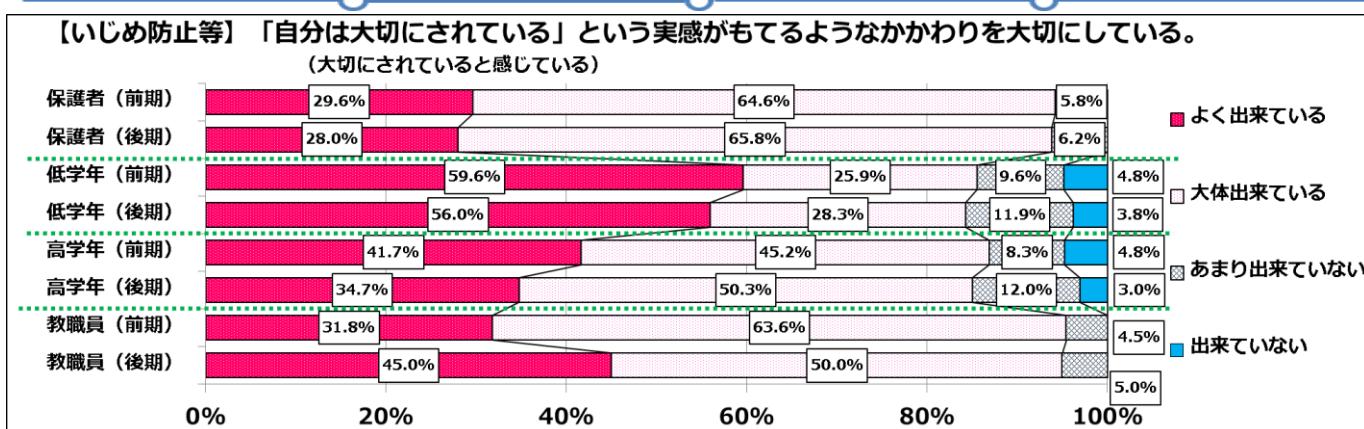


保護者・児童・教職員の全てにおいて、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が90%を超える高い評価となりました。これは非常に喜ばしいことです。子どもが毎日楽しく通える学校の実現に向け、学級づくりや学校全体の取組等の成果であると考えています。しかし、「あまり出来ていない」「出来ていない」と肯定的でない回答をした児童の割合が約5%～10%であるという事実も受け止めなければなりません。そのように回答した子どもたちと、積極的にコミュニケーションを図り、さらに、「楽しい」と感じる学級・学校づくりを進めていきたいと考えます。保護者の方々とも密に連絡を取り合い、すべての子どもたちにとって、学校という場所が楽しい存在となるよう、今後も取組を進めてまいります。

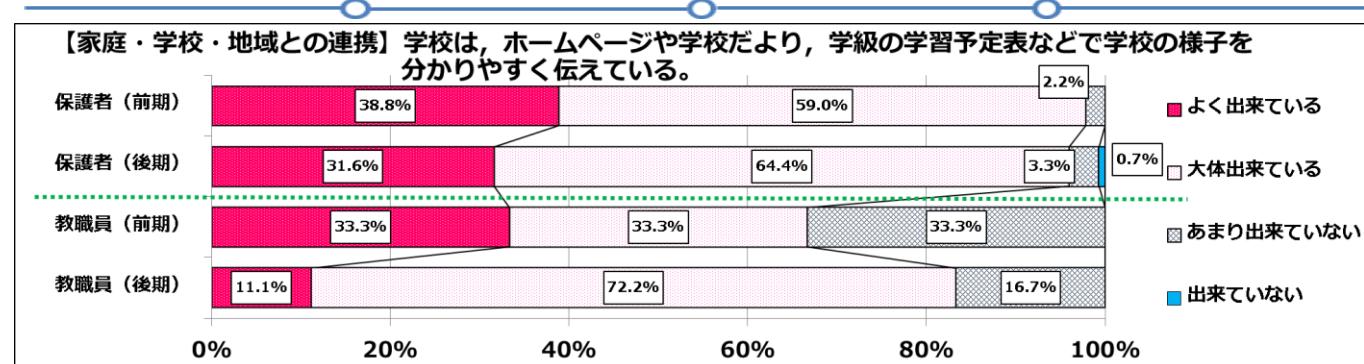
ご協力ありがとうございました。



低学年児童において、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が約87%，高学年で約82%となり、いずれも前期を少し上回る結果となりました。アンケートの時期が冬に行ったことを踏まえると、児童が気温に関係なく、よく体を動かしていることが分かりました。この結果には、統合初年度から取り組んでいる、週二回の「ジャンプアップタイム」の成果が表れていると推測します。10分間という短い時間ではありますが、全校児童が一齊に運動場や体育館で遊ぶという時間は貴重です。楽しく遊ぶことを通して、自然に体を動かすことができる同時に、なかまと協力したり、ルールを守ったりするなど、社会に生きて働く力も身についていくと考えています。



低学年児童や高学年児童について、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合は、前期とほぼ同じ割合であったが、「よく出来ている」と、より肯定的に回答している割合は減少した結果でした。また、以前、肯定的ではない割合が、低学年児童、高学年児童とともに、約15%であり一人一人の児童の心情に寄り添いながら様々な取組を進めていく必要があります。「自分は生まれてきてよかった」「自分の命を大切にしたい」「人の役に立ちたい」など、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、自尊感情や自己肯定感を高める教育を進めていきます。



教職員において、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が、前期と比べ約16%増加し、「あまり出来ていない」と回答した割合も約17%減少しました。統合二年目の今年度、下京雅五大フェスティバルを中心とした様々な取組を進めてまいりましたが、教職員の積極的に発信する意識が高まっていることは嬉しい結果です。学校の取組を保護者・地域と共有し、社会に開かれた学校の実現を目指すためにも、次年度以降も、一人一人の教職員の意識をさらに高め、分かりやすく発信していきたいです。

学校運営協議会の方々のご意見 (多くの意見をいたしました)

自己肯定感を高めることが大切。自分は大切にされているということと同時に、自分は人を大切にしているかという能動的な質問項目に変えてよいのではないか。

コミュニティーフェスティバルで2年生が、堂々と発表する姿が非常によかったです。

健やかな体についての評価が他と比べて低い傾向にある。学校だけではなく地域を巻き込んだ取組をしていかなければならない。

フェスティバルに多くの人を集め工夫をする必要がある。また、当日に至るまでの過程を児童が発信するといった形も検討していいのではないか。

これらの結果を、来年度の下京雅教育推進に生かしていきたいと思います。